

日本福音主義神学会・東部部会

ー 春の研究会 ー

「聖餐論」

なぜ、いま“聖餐論”なのか・・・。

日時：2011年6月20日(月)

午後2:00～5:00

会場：お茶の水クリスチャンセンター (OCC)416 号室

連絡先：vyc12560@nifty.com(内田)

maruyamasy@ab.auone-net.jp(丸山)

坂本 誠

テーマ：「不信仰に陥った者たちへの励ましとしての聖餐ーウェスレーの宣教のわざとしての聖餐を土台にしてー」

概要：ウェスレーは当時の英国の中で、名ばかりのキリスト者が真実のキリスト者を目指して歩むことを目標とし、聖化の福音を唱えました。しかし、名ばかりのキリスト者を断罪したわけではありません。むしろ温かい気持ちをもって励まし、不信仰に陥った者が聖餐に与り、回心し確信を与えられることを目標に活動しました。ウェスレーの聖餐を手がかりとして、今日の日本の聖餐を考えていきます。

プロフィール

日本ナザレン教団小岩教会牧師

日本ナザレン神学校校長（ウェスレー神学担当）

青山学院大学、山梨英和大学非常勤講師

大坂 太郎

テーマ：「I コリント 11:17-34 に関する釈義的考察ー特に主の晩餐と伝統、宣教、一致をめぐるー」

概要：所定のテキストにおいて使徒パウロはコリント教会で起こっていた、主の晩餐に関する混乱を取り扱っている。本稿ではその釈義研究を通して、主の晩餐と宣教との不可分性について言及しつつ、何が陪餐者をして「ふさわしいもの」とさせるのかについてパウロの回答を探りつつ、聖餐の乱れにゆれる現代日本の教会に一定の提言を行う。

プロフィール

1968年、北海道に生まれ。シンガポール・バイブル・カレッジ卒(Th.M)。専攻は新約聖書学。2002年より2010年まで中央聖書神学校専任講師として勤務。ペンテコステ派で生まれ、福音派で育ったということから両派の建徳的関係作りのための架橋的働きをライフワークにしている。現在ベテルキリスト教会牧師。日本福音主義神学会（東部部会）理事。

三好 明

テーマ：「教会形成における聖餐の意義ーカルヴァンの立場からー」

概要：いつの時代でも、共に聖餐にあずかることの幸いを認識し、聖餐に正しくあずかる訓練を受けることによって、真実の教会が形成されます。このことを宗教改革者カルヴァンの神学により一緒に考えたいと願っています。

プロフィール

1961年生。大阪大学、日本キリスト教会神学校卒業。1996年-1998年、韓国留学。現在、日本キリスト教会志木北伝道所牧師、日本キリスト教会神学校校長。

